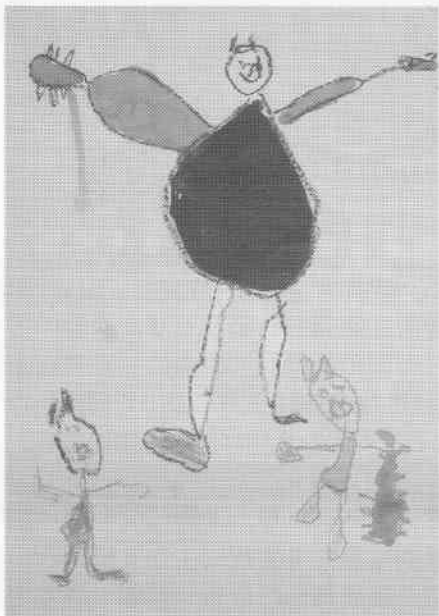
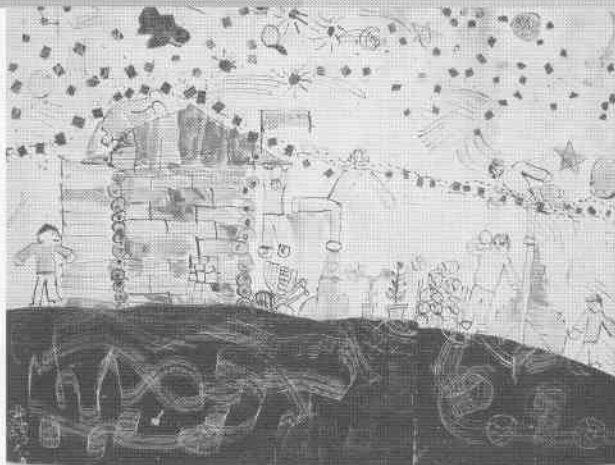




旭川市 きくし幼稚園 4歳
「ももたろうをよんで～おに～」三浦 司

評：ももたろうのお話に出てくるおに、手に金棒を持って、とても強そうです。のびのびと描けています。



北広島市 大曲東小 4年 「星の上でくらそう」中川 薫

評：ひっかいてつくった絵を効果的にはりつけ、画面を楽しくひきしめています。自分だけの楽しい星のくらしがファンタジックな色づかいとのびやかな線でよく表現されています。

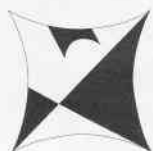


札幌市 札苗中 2年 「友達」 丸子 万衣

評：しっかりしたデッサンと確信を持ってぬられ色に自立した魂を感じます。主張する心とコントラストのよさに共感します。

もくじ

教育美術展奨励賞作品	1 〈表紙〉
北海道造形教育連盟委員長挨拶	2
ネットワーク今後の方向性	3
帯広・十勝大会で学び合おう	4～5
教育美術展特集	6～7
地区サークル紹介（函館・札幌）	8
あとがき	8



北海道
造形教育
連盟報

No.114 2002.7.20発行
発行 北海道造形教育連盟

委員長 藤井 正治

事務局 札幌市立八軒小学校 富田 泰
〒063-0844

札幌市西区八軒4条西1丁目
TEL642-0155・FAX642-4946



新たな歩みの始まりに

北海道造形教育連盟
委員長 藤井 正 治

はじめに

4月27日の地区委員総会におきまして、連盟委員長の任に就くこととなり、その責務の大きさに身の引き締まる思いです。

一昨年は、連盟創立50周年の取り組みがあり、文部省より板良敷敏教科調査官を招いての講演会を開催し造形教育の今についての示唆をいただきました。また、昨年は、北海道では3度目となる「第54回全国造形教育研究大会北海道大会in札幌」の開催があり、多くの成果を得ることができました。この大会においては、文部科学省から遠藤友麗視学官をお招きして「教科としての図画工作科・美術科の在り方」について大きな示唆をいただきました。いずれも、連盟の歴史的な節目として意味のある取り組みであり、連盟会員はもとより、北海道の造形教育に関わる方々の熱意と協力があって実施されたことに大きな成果がありました。

連盟の財産を原点に

さて、平成14年度の今年は、学校完全週5日制のもとで「新学習指導要領」が完全実施される年であります。今回の改訂においては、「目標」が従来よりも、表現や鑑賞の幅広い活動を通して「つくり出す喜びを味わう」ことを重視していることが上げられると思います。これは、ものや人との関係をつくり出す「かかわる力」や、新たな発想や意味を創造することへの関心や意欲、また、表現への満足感などを通して自分らしく生きることの基盤となるものです。

また、一方では、基礎・基本の重視も指摘されています。図工・美術科における基礎・基本をどのようにとらえるかも研究の重要なテーマとなるものと思います。教科としてのねらいや生きる力として具

体的に身に付けるべき力をはっきりと打ち出し、教科としての価値を訴える努力も必要です。連盟の研究の財産である「授業の構築」を原点に、子供たちに付ける力、引き出す力、伸ばす力について授業のレベルで研究を進めて行くのも大切なことと思います。

理論と実践の融合をめざして

新たな歩みを進めるに当たり、連盟研究部が取り組んでいます理論的な部分を実践に生かす努力と、教科としての図工・美術科の在り方や基礎・基本のおさえ、また、子供たちの感性や創造性を培う手立ての追究を深めていきたいと思っています。

そのためにも、第52回となる「全道造形教育研究大会 帯広・十勝大会」では、多くの会員の参加と活発な討議が期待されます。教科としての価値を多くの人達にアピールするためにも、そして、帯広・十勝の仲間の熱意や努力に応えるためにも、図工・美術を考える場としての7月27日に作品や実践を持ち寄り有意義な1日として大会を成功させたいと思います。

本連盟は、造形教育発展の事業の一つとして『北海道教育美術展』を開催しております。審査は札幌で行われますが、全道の実践の交流の場として、また、児童・生徒の作品を通しての実践的な研修の場として大変有意義な場であります。是非とも多くの会員の方々が審査に参加されますことを願っております。

多くの課題を抱えながらの歩みとなりますが、全道の会員の皆様と共に着実な歩を進めてまいりたいと思いますので、この1年よろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、連盟並びに各地区サークルの益々のご発展をご祈念申しあげまして、ご挨拶いたします。

14年度 役員・本部事務局員紹介

委員長 藤井正治（札幌市立上野幌東小長）
副委員長 及川輝夫（旭川市立東鷹栖中長）
副委員長 近藤 貢（函館市立銭亀沢中長）
副委員長 佐藤正幸（美唄市立東小長）
副委員長 森戸春樹（帯広市立広陽小長）
副委員長 江川佳徳（札幌市立前田北中長）
監 査 土井勝典（江別市立江別第三小長）

監 査 横岸澤英二（函館市立港中）
事務局長 富田 泰（札幌市立八軒小長）
会計部長 益村 豊（札幌市立創成小頭）
庶務部長 安木尚博（札幌市立幌南小）
研究部長 川島正夫（札幌市立南の沢小）
事業部長 稲實 順（札幌市立創成小）
広報部長 土井善範（札幌市立伏見小）



次世代ネットワークの構築に向けて

北海道造形教育連盟 本部研究部 ネットワーク部門

札幌市立伏見小学校 野 切 卓

1・ネットワーク設立の理念

「全道に18ある地区サークルを、研究ベースで結びつけることで、もっとすばらしい北海道ならではの研究ができるのではないか。」

このような発想から生まれた全道造形教育ネットワークも、早いもので今年で10年目を迎えます。その間、毎年夏に行われる全道大会でのネットワーク分科会を中心に、徐々にではありますが、確実に、研究交流の輪を広げてきました。

2・これまでの取り組みを振り返る

ネットワーク設立当初は、各地区サークルの現状報告や作品交流などを行ってきましたが、その後、本部研究部から提案された新研究主題について話し合うなど、より研究主体の内容となってきました。そして、平成10年度からは、昨年行われた第54回全国造形教育研究大会北海道大会に向けての準備を中心に活動を進めてきました。

こうした全道造形教育ネットワークの取り組みも、全国大会での各地区による助言・提言というすばらしい成果を残し、一つの区切りを迎えたところです。

3・新しいネットワークの活動として

この全国大会での成果を受けて、全道造形教育ネットワークは、北海道全体を結びつけるという所期の目的を大切にしながらも、北海道の外に目を向けたネットワークのさらなる広がりを模索していく時期にさしかかっていると言えます。

今年度の全道大会、帯広・十勝大会でのネットワーク分科会では、他の造形教育団体や民間の造形教育研究機関との連携を、インターネットのホームページを媒介に行っていくことなどを検討します。

4・ホームページの充実に向けて

今後ネットワークの広がりのためには、ホームページが果たす役割がますます大きくなっていくことが予想されます。全国に発信するホームページとして、これまで以上に内容を充実させられるよう、会員のみなさんからホームページ用の実践や子どもの作品などを広く募集しております。お問い合わせなどありましたら、右記のEメールアドレスまで、どうぞよろしくお願いいたします。

<ネットワークのあゆみ>

【平成5年 旭川大会】

- ・本部研究部の提案を受け、全道造形教育ネットワークの設立が承認される。

【平成6年 釧路大会】

- ・第1回ネットワーク分科会を開催。各支部の現状報告や問題点の交流を行う。

【平成7年 千歳大会】

- ・大会会場で各支部の作品交流を行う。

【平成8年 札幌大会】

- ・全18支部の名簿を取りまとめる。地域の特色を生かした実践交流を行う。

【平成9年 根室大会】

- ・新研究主題の設定や、教育美術展の審査員派遣について話し合う。

【平成10年 留萌大会】

- ・全国大会に向けての大会主題やキャッチフレーズなどについて話し合う。

【平成11年 オホーツク大会】

- ・全国大会での分科会の運営や提言について、意見交流を行う。

【平成12年 函館大会】

- ・全国大会での助言や提言の担当者名や内容について、各地区の状況を確認する。

【平成13年 全国大会・北海道大会】

- ・全国大会の分科会で、各地区の取り組みを生かしたの助言や提言を行う。



<本部研究部 ネットワーク部門>

野切 卓 (札幌市立伏見小 011-511-2771)

山 薫 (札幌市立澄川南小 011-584-2115)

*HP <http://ha5.seikyoku.ne.jp/home/hokuzou/>

*Eメール hokuzou@ma5.seikyoku.ne.jp

第52回 全道造形教育研究大会 帯広・十勝大会

研究主題 豊かな感性をはぐくむ造形教育

大会テーマ **広い大地に紡ぐ夢**



会期 2002.7.27(土)

会場 帯広市立広陽小学校

ご挨拶

全道造形教育研究大会帯広・十勝大会 運営委員長
齊 藤 隆 博

今年は教育新生元年と言われ、いよいよ日本の教育が新しい教育への第一歩を踏み出します。この記念すべき年に、帯広・十勝の地で全道造形教育研究大会を開催いたします。

私たちは、帯広・十勝に広がる大地に、子どもと共に、新たな自分をさがす夢を紡ぎ、地域や伝統の文化を未来へ発信する帯広・十勝ならではの造形教育をめざしていききたいと思っております。

帯広・十勝は前回の全道大会開催から12年目を迎えました。今、その歴史の重さをしっかり受けとめ帯広・十勝の造形美術教育に携わる者たちが「広い大地に紡ぐ夢」を合い言葉にその準備を進めているところです。大会では全道各地の先生方、美術教育に携わる方々、そして何より子どもたちとで、「みる」こと「つくる」こと、そして「いかす」ことの喜びを分かち合いたいと思います。

7月末の十勝は、さわやかな青空の下、黄色、緑、白と色彩溢れるパッチワークのような大平原がどこまでも続きます。ワイン城で美味しいワインを飲み、十勝野に沈む夕日の鮮やかなこの十勝に、ぜひ、全道の皆さんにお越しいただき、全道各地の実践や、新しい21世紀の造形教育について語り合いたいと思います。全道からのたくさんの皆さんの参加をお待ちしています。

研究主題 豊かな感性をはぐくむ造形教育

ここ近年、私たちの生活は多くの情報と物にあふれ、ややもすると、本当に大切なものを見失いがちになってはいないでしょうか。この帯広・十勝の広々とした大地と透き通った空気、さわやかな青空の下に立ち、子どもたちの「創るの大好き！描くの大好き！」という想いを「みる」「つくる」「いかす」という造形の基礎本としてのテーマとして受け止め、一人一人の子どもたちの夢を紡いでいききたいと思っています。

みる

つくる

いかす

夢を織る五色の糸

夢1

「つくるのだいすき、
かくのだいすき」
～発想を広げ、豊かな心をはぐくむ造形活動～

大地1

「身近な自然とのふれあい」
～五感にひびく造形活動～

夢2

「空間(光)を感じる」
～創られた夢の世界に新たな自分を探す造形活動～

大地2

「素材の特性をいかしてつくる」
～素材からふくらむ発想をいかす造形活動～

人

「現在・過去・未来…人から人へ」
～地域や伝統の文化を未来へ発信する造形活動～

大会日程

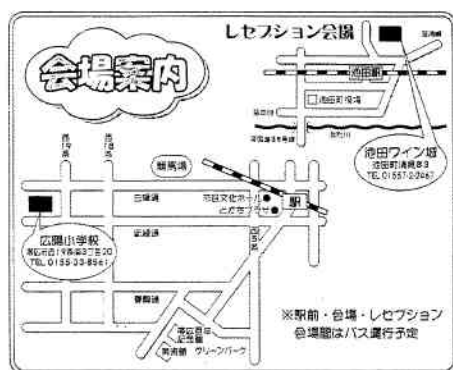
8:30～ 受付	9:00～ 公開授業 A	9:50～ 休憩 移動	10:00～ 公開授業 B	11:00～ 開会式	12:00～ 昼食 休憩	13:00～ 分科会 研究討議 提言	16:00～ 移動	18:00～ 閉会式 レセプション
-------------	---------------------------	-------------------	----------------------------	---------------	--------------------	-----------------------------	--------------	-------------------------

公開授業

公開授業	校種学年	領 域	題 材 名	授 業 者	分科会
B	幼稚園	陶 芸	親子で土鈴をつくろう	三好 花・服部 正 帯広第二ひまわり幼稚園	夢 1
A	小学校 2 年	絵 画	こんな〇〇〇が あったらいいな	佐々木 忍 帯広市立明和小学校	夢 1
B	小学校 全学年	造 形 あそび	『ふれて、かんじて』	野原 圭介 上士幌町立北門小学校	大地 1
A	小学校 4 年	共 同 作 作	心にのこそう 「思い出の光の森」	阿部 飛鳥 帯広市立若葉小学校	夢 2
B	中学校 3 年	陶 芸	ぬくもりを感じて	嵐田 美智子 幕別町立幕別中学校	大地 2
A	中学校 2 年	絵 画	日本画の制作 ～岩絵の具を使って～	加瀬谷 真理 帯広市立川西中学校	人
B	高 校	絵 画	「私のカプセル」	村上 陽一 帯広柏葉高等学校	人

分 科 会

	分 科 会	提 言 者		司 会 者	助 言 者
1	幼稚園・小学校低学年 夢1 「つくるの大すき かくの大好き」	大坪美千子 士幌立佐倉小学校	高畠智哉樹 幕別町白人小学校	松浦 恵子 帯広市立大空小学校	金子 章 士幌町立上居辺小学校
2	小学校 大地1 「身近な自然との ふれあい」	中塚 雅春 帯広市立森の里小学校	中島 健明 北海道教育大学 附属釧路小学校	鈴木 修 広尾町立豊以小学校	武田 啓 幕別町立駒畠小学校
3	小学校 夢2 「空間(光)を感じる」	佐々木智穂 帯広市立啓北小学校	中澤 孝仁 滝川市立東小学校	岡本 眞一 士幌町立佐倉小学校	板木 武 もみじ台南小学校
4	中学校 大地2 「素材のよさを見 つける」	上田 美紀 帯広市立帯広第一中学校	渡邊 万紀 旭川市立東明中学校	下坂 正之 広尾町立豊似中学校	種川 健 音更町立緑南中学校
5	中学校・高校合同 人 「現在・過去・未来 …人から人へ」	白戸さゆみ 芽室町立上美生中学校	石川 早苗 札幌市立手稲中学校	神 史明 帯広市立大空中学校	近藤 貢 函館市立銭亀沢中学校



大会事務局

大会事務局長 帯広市立緑園中学校 海富 隆

〒080-2472 帯広市西22条南4丁目2

TEL(0155)36-7819

FAX(0155)36-7829

北海道教育美術展審査の観点について

北海道造形教育連盟研究部

研究部長 川 島 正 夫

本美術展で奨励作品や入選作品を選んでいくということは、結果的に教育活動の中で生まれる「よい絵」の基準をつくることになります。ですから、「よい絵といえるものに共通するものは何なのだろうか?」「我々が選んでいくためのめやすはこれでいいのだろうか?」等を毎年見直しながら審査にあたっています。

本美術展は、「教育」美術展ですので、【**普段の教育活動の中で生まれた作品である**】【**子供の発達段階を考慮したものである**】という点が前提となります。その上で、以下に示します。「審査のめやす」をもとにし、たくさんの観点をもちながら審査にあたっていきたいと考えています。

◆連盟としての審査のめやす◆

学 年	<学習内容にかかわって>	<表現したい心にかかわって>
幼稚園	●線に勢いがある絵 ●色の使い分けがある絵	●のびのびと個性的な絵 ●思いがその子なりに表現されている絵
小学校	【1年生及び2年生】 ●大きくのびのびとしっかりとした線で表現しているか ●生活経験や夢などの中から、感じたことや考えたことを形や色に関心をもって、思いのままにのびのびと表現しているか 「遊びや生活」「いきいきとした線」「形の表現や色づくりを楽しむ」「夢が感じられる」	【1年生及び2年生】 ●どこに興味・関心をもったかわかるように表現しているか ●自分らしさが感じられる絵 「驚き（感動）がある」 「子供の顔や心が見える」 「自分との関連が見える」
	【3年生及び4年生】 ●表したいものの位置関係に関心をはらい、工夫して表現しているか ●画面をどのようにまとめたら感じが出るかを考えて表現しようとしているか 「試みが保障されている」「豊かな発想」「バランスに意識が向いている」	【3年生及び4年生】 ●自分らしい見方、感じ方で特色ある表現をしているか 「子供の思いが中心にある」 「訴える力がある」 「誠実さ（ていねいさ）が感じられる」
	【5年生及び6年生】 ●自分なりに主題がよく表れるように工夫して表現しようとしているか ●表そうとするものの特徴をつかんだり、雰囲気や感動を強調して、内容豊かに表現しようとしているか 「新しい発見や技能の獲得」 「リズムや調和が感じられる」	【5年生及び6年生】 ●自分らしい感じ方、見方や考えから自分らしさが発揮されているか
中学校	●形を的確にとらえている、構図を工夫している（奥行、立体感、空間） ●豊かな色彩を使っている、技法の工夫が見られる（用具の適切な使い方）、それぞれの描画材の特色を生かしている ●形づくりが効果的・独創的である、ねらいに合った構成である（配置、配色） ●ねらいに合った技法を駆使している、ねらいに合った着色をしている、ねらいに合った材料を用いている	「素直な心情の表現」「自分らしさとよさ」「子供らしい生き生きとした迫力」「感動」「対象への思いや愛情」 「世の中をよりよくするために訴えたいこと」「意図したねらいの的確な表現」「ほほえましく、ユーモアがあり人を楽しませること」

第29回 北海道 教育美術展

掲載作品は第28回奨励賞作品です。

応募要項概要

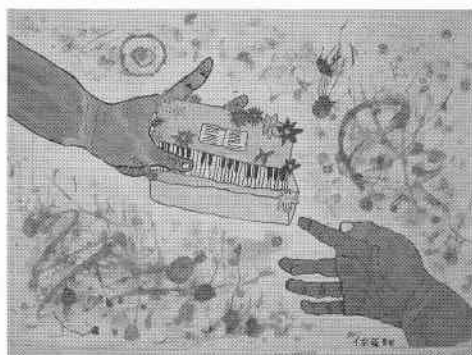
○後日、要項発送となりますが、準備の都合を考え、概要をいち早くお知らせいたします。

対 象

・保育園・幼稚園・小学校・中学校に在籍する児童・生徒。

応募規定

- ・絵画、版画、デザイン等の作品とし、学校（園）を窓口として応募する。
- ・大きさは4つ切り。4つ切り以下の作品は、4つ切り大の台紙に貼ること。（中学校については、8つ切り大の台紙も可）
- ・1人1点の出品とする。
- ・作品の裏に応募票を貼る。（応募票をコピーして使用）
- ・応募総数を学年別出品一覧表にまとめて添付する。
- ・作品は学年ごとに重ね、一つにまとめて、おもてに「教育美術展作品」と記載する。



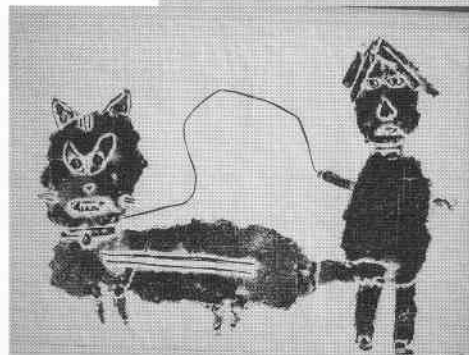
「伝えよう、手から手へ」
札幌市 西園小4年 佐藤 貴美

締 切

- ・平成14年12月16日(月)まで
期日厳守のこと



「それっ 雪玉だ」
恵庭市 和光小 4年 鈴木 統夫



「晴れの日のさんぽ」
鶴川市 花岡小 1年 小関 勇介

絵画、デザイン等で種々の材料での表現が見られますが、
展示、保管上次の規定をお守りください。

- ・積み重ねてもつぶれない、かさばらない
- ・接着が強固ではがれない
- ・画鋏で展示が可能な重量

送 付 先

〒064-0921
札幌市中央区南21条西5丁目
札幌市立幌南小学校
北海道教育美術展係宛

主催 北海道造形教育連盟
北海道新聞社
後援 北海道教育委員会
協賛 さっぽろ東急百貨店
株式会社 サクラクレパス



「つりばりにいった」
室蘭市 母恋小 5年 村田 望

問合せ先

札幌市立月寒小学校 池田 武彦
TEL 011-851-9348 FAX 011-851-2358

地区サークル紹介

114号 札幌 109号 石狩 111号 空知 113号 留萌 112号 後志 110号 檜山

114号 函館 113号 渡島 110号 胆振 110号 上川 108号 旭川 111号 室蘭 113号 苫小牧 112号 十勝 111号 帯広 108号 釧路 108号 林-ツ 108号 根室 18 支部

●函館市美術教育研究会

「今も引き継がれる美術教育への熱い思い」

美術を愛し、美術教育に情熱をもっておられた先生方が集まり「函館市美術教育研究会」が発足したのは、昭和24年春のことです。現在小学校27名、中学校22名計49名とやや会員数は少ないものの、過去6回の全道造形教育研究大会を一丸となって取り組むなど、諸先輩方の情熱は今も引き継がれています。組織としては、総務部、研究部、事業部、庶務部に各会員が所属し活動しています。

今年度の主な活動として、毎月の例会（今年度の事業についての話し合いや実践の交流）をはじめ、10月には市内のデパートを会場に小中学校児童生徒写生展を開催。11月には平面作品から立体作品まで日ごろの学習の成果を発表し合う小・中学校児童生徒美術展の開催を予定しています。

さらに小学校・中学校それぞれに研究授業を開催し、実践の交流を図るとともに、1年間の実践の中からそれぞれが持ち寄り、実践集録としてまとめています。

今後は、道立函館美術館との連携も視野に入れながら新たな研修の場も考えているところです。函館美術教育研究会が発足して50年が経ち、記念誌をつくる計画で準備を進めているところです。

（函館市立港中学校 溝岸澤英二）



あとがき

第114号をお届け致しました。お忙しい中、原稿をお寄せくださいました先生方に厚くお礼申し上げます。毎号取り上げて参りましたサークル紹介の企画も、今号をもちまして終了致しました。広い大地、北海道の各地で造形教育の根をしっかりと張り、ご活躍されている先生方の熱意に敬意を表します。第115号からは、新企画でスタートとなります。皆様のご協力なくしては、連盟報は存在しません。これからも、よろしくお願い致します。また、近づいて参りました帯広・十勝大会のご成功をお祈り致します。大会当日に、またお会いしましょう。

造形連盟広報部（中山龍男、三井 哲、山室ゆかり、阿部時彦、東 尚典、加藤正幸、土井善範）

●札幌市造形教育連盟

子どもの表現と共に

平成6年に旗揚げされた札幌市造形教育連盟（以下「札造連」）は、全道18支部の中で、最も新しい地区サークルです。それまで札幌には、北海道造形教育連盟の本部研究部がありましたが、札幌市の造形教育を一層広め深める研究団体の設立が待ち望まれていました。こうした声を受けて設立された札造連は、今年度も幼・小・中・高という校種の枠を越えて集まった163名の会員が、子どもの今を見据え、思いに寄り添う造形教育のあり方を追求しています。

札造連のこれまでの取り組みを振り返ってみますと、授業研究を中心に数々の特色ある活動を行ってきました。例えば、宿泊しながら実技研修に取り組む「夏研究所」や「冬工房」を行ったり、機関誌『創（つくる）』を発行したりしてきました。また、授業研究の成果として、平成8年に第46回全道造形教育研究大会札幌大会を開催し、昨年の第54回全国造形教育研究大会北海道大会においても、積極的に授業づくりに関わって大会を支えました。

これらの研究の伝統は、札造連設立時の総会で授業を公開したという出発点に遡ることができます。そして、この授業づくりに対する姿勢は、毎年2月に開催されます「2月会」と呼ばれる授業研を通じて脈々と受け継がれているのです。昨年度の「2月会」においても、三角山小の堀口先生が2年生のパスを使った授業を公開し、全国大会後の研究のきっかけとすることができました。

今後も、授業を通して子どもの表現が生まれる瞬間を共有し、子どもと共に自らを成長させていく実践家集団としての活動に取り組む決意であります。

（札幌市立栄南小学校 佐藤 靖）